

「患者会」の活動内容や診療との関わりは?

Q 患者会をつくらうと考えています。すでに患者会を組織している医療機関では、日頃の活動

内容や診療との関わり方はどのようになっているのでしょうか。
(内科クリニック院長)

楽しく長く続けるために 遊びを取り入れた教室づくりを

A 当院での患者会は多岐にわたっており、大きく分けると患者さん全体を対象とする会(松樹会)と、疾病別のグループとに分けられます。後者のひとつとして糖尿病教室があり、約二五〇人の患者さんを登録しています。日頃の活動は次のとおりです。

①糖尿病手帳を各人に渡し、診察毎

に血糖値(至急で測定)結果および尿検査結果等を記載して常に携帯してもらっています。

②一年に三、四回、糖尿病教室を待合室で開きます。はがきやポスターで三〇人前後の糖尿病患者さん呼びかけます。第一回目は「糖尿病という病気について」と題して、糖尿病のタイプや病態と合併症についてお話しします。第二回目は「食事療法と運動について」

で、栄養士と私および看護婦が、当院で作成したパンフレットを配って説明します。第三回目は「治療について」で、なるべく輪になって座り、経口糖尿病薬、インスリン等を見せて話します。

③次のステップは食事会。料理教室等を借り、患者さんとスタッフ、栄養士とともに食事をつくります。

会食により食生活の一部がわかることもあり、日頃の指導が具体的にあり、「苦しいのは自分一人ではない」という連帯感も生まれるようです。

④総仕上げともいえるべき年に一回の企画は「糖尿病合宿」です。二〇人前後の患者さんとスタッフ、ボランティアなど総勢三〇人で土曜日の昼からバスで出かけます。ゲームやオリエンテーリング、フォーク・ダンスなどを企画し一万歩以上歩き、昼食はみんなで作ります。

実際は患者さんに負担してもらい、運営上の問題は特にありませんが、安全を図ることが第一なのでマンパワが結構必要です。問題は、何度呼びかけても教室に参加されない患

者さんです。意識下にも糖尿病の恐さを知ってもらうためあらゆる機会に話したり、「糖尿病の合併症」のイラストなどを置いておくと結構インパクトが強いようです。

「何事も楽しくなければ長続きしない」という持論から、遊びを取り入れた教室づくりを心がけています。患者さんとの人間関係も深まり、日常の診療には非常に参考になります。



●今号の回答者
松尾 美由起 氏
医療法人松尾クリニック院長

Q1 質問を待ちたいです。

患者サービス、職員教育、税金問題など、内容は何でも構いません。各分野の専門家がお答えします。質問は四〇〇字程度にまとめ、設立主体、病医関係、病床(有無)規模、診療科名、質問者の氏名を明記の上、郵便またはフランクにてお送りください。相談は無料です。(掲載時の匿名は可) 〒100 東京都千代田区神田小川町三(一)八二(株)メックス 編集部へ
☎03-3294-8755 FAX 03-3294-8757